くるというのが私の両親の考えでもありましたし、私も確信しておりました。営業車が二台、三台なら車が小さいですから私一人でやりました。これが五台、六台になってくると一人ではできない。家内も連れてきて、幼い子どもも動員して親子四人で会社の休みの日に全部洗ってワックスを掛けて、車の中の足元もきれいにして置いておくと、また汚して置いてある。社員が「私がやります」というまで十年以上かかりました。十年超えたところで、私が命令したり、規則を作ったわけではないのに一人、二人とやるようになりまして、やがて多くの人たちが自然にやるようになりました。よく人から「どうして当番制にしなかったのか」、「会社の職務規定に盛り込まなかったのか」と聞かれますけれど、社員は職務規定や規則に従って仕事をする人は一人もいないんですよ。そんなのあっても誰も知らないんです。何に従っているかといいますと、「社風」に従って仕事をするんです。だから社風を良くすれば、必ず仕事の仕方も良くなっていきます。どんなに規則を厳しくしても社風が悪ければ、それに従った仕事をしてしまうわけですね。そこで私は「いい社風にしていきたい」、いい社風とは「穏やかで優しい心を持った人」です。それを一番の目標に掲げて取り組みました。やがて十年を超えたところからだんだんと広まって、二十年目の頃にはほとんどの人がやるようになりました。三十年経ったら外から、掃除のやり方を教えて欲しいといって訪ねて来るようになりました。最初の十年は暗澹たる気持ちでした。まったく自分の考えていることが通らないわけですから、伝わらないんです。でも、そこで、これ以上に何かいい方法があるのかなぁ、どう考えてもこれ以上いい方法を思いつかなかった。ですから迷っては戻り、迷っては戻りしてやり続けたんです。

掃除を止めたいと思ったことは？

「止めたいな」とは思いました。しかし、これを止めて他にいい方法があるのか？と自分に問いかけると、なかった。だから続いたんですね。それからもう一つ、人間は窮地に陥ると少しでもいい方法を、例えば掃除であってもいい方法を工夫しますよ。この工夫が継続のエネルギーです。ほとんどの人が掃除は単純だから工夫をしない。同じことを同じやり方でやります。そうすると嫌になって止めるわけです。私は掃除ひとつでも絶えず道具から工夫してきたことが継続のエネルギーとなりました。車、トイレの掃除以外でも商品をきちんと整理するとか、会社の付近を最初は僅かであっても、ここがきれいになったら、広げて広げて遠くの方まで掃除をするようになりましたね。掃除を工夫しない人はいつも同じ範囲を同じ時間かけて掃除するんです。工夫すると同じ時間なら範囲が広がるんです。同じ範囲なら時間が短くなるんです。これが工夫です。同じことを同じやり方で同じ時間をかけてやってる人は成長しない。時間が短くなるか、範囲が広がるか。質が高まるか。この三つを追求していったら、今まで気がつかなった人もよく気がつくようになっていきます。

【編集後記】今号で紹介した三人は中学校、高校時代に便教会活動に出合って実践を継続し、人生が良くなっていると実感している。掃除を通しての気づきはそのとき、その人に最も相応しいメッセージとなる。汚れたところよりきれいなところを好むのは当然で、きれいなものを見て清々しい気持ちになるのは私たちの細胞にその情報が組み込まれているからだと思う。しかし、トイレの汚れを見て、きれいにしようと動く人は少ない。汚れは放置しておけばどんどんひどくなる。私は40歳になって初めて、きれいにすること、そしてものを大切にする意義をトイレ掃除で気づくことができた。ものがきれいになると、人も輝き、喜びが増す。その喜びを共有する人がいれば、喜びは増幅される。生徒や同僚に掃除の素晴らしさを伝えることで掃除を深く知るようになり、掃除にはまっていった。今日まで継続する原動力は、きれいになった喜び、それを共感する仲間である。40歳まで後ろ向きだった人生は大きく変わった。トイレ掃除で出直しが始まり、世界が変わっていくことを実感した。「人生やり直しはできないけど、出直しはできる。」出直しするなら早ければ早いほうがいいが、時が来なければ気づかない。教師はそのチャンスを与えることができる。まず、教師が資質向上の糧としてトイレ掃除に学び、気づくことから始まる。継続すればその素晴らしさを生徒に伝えたい熱量が大きくなる。それが生徒に伝わり、生徒が動き、学校が変わる。教師が変われば子供が変わり、学校が変わる。

高野修滋　拝

便教会新聞

第136号

平成30年3月

無限

便教会は、教師の教師による教師のためのトイレ掃除に学ぶ会です。「方法論や技術や手法ではない、ただ身を低くして実践あるのみ」の教育方針で、自らの人格を高めることを目的としています。

便教会新聞発行責任者　高野修滋
〒四四五―〇八〇二
愛知県西尾市米津町天竺桂二七
T/F　〇五六三―五六―四三二七
携帯　090 - 4215 - 1727

『掃除が好き』

（愛知県）扶桑町立扶桑北中学校
三年　渡辺　有理

私は一年生の時から「便教会」に参加しています。きっかけは当時の担任の先生から「いっしょに便教会に参加してみないか？」と誘われました。気持ちは五分五分でした。参加してみたい気持ちはあったけど、素手でやるのは正直汚いと思っていました。でも、今は参加して良かったと思っています。初めての時、嫌だなぁと抵抗感でいっぱいでした。「悪臭がする、黄色っぽい汚れがついている、こんなのきれいになるの…？」って思っていました。道具を受け取り半信半疑でやってみると、汚れがどんどん取れて、地のきれいな白が出てきました。自分で掃除をして、汚かったところがきれいになって達成感があり、清々しい気持ちになり、なんだかうれしさがこみ上げてきました。始める前、こんな気持ちになるなんて思ってもなかったので驚きました。先生も生徒も男も女も関係なく、みんなが平等にトイレ掃除をするのはいいなぁと思いました。私は便教会に参加して凄いと思うことが二つあります。

一つ目は「道具をとても大切に、有効に使っている」ことです。当たり前のことだけど、物が長持ちするのは、そのものを使っていないか、大切に使っているかの二つのパターンです。例えばスポンジの絞り方ですが、何も知らないと雑巾を絞るように水を切りますが、便教会の人たちはねじって使うのではなく、両端からスポンジを握って使います。そうすることでスポンジがちぎれずに長持ちします。小さなことですが、物を使っていく上でとても大切なんだと感じました。単なる道具としか見ていなかったけど、物をいたわる気持ち、その物が持っている性質を考えて使い、後片付けまでキチッとすることが長持ちの秘訣なんだとわかりました。他には排水溝の壁面にこびりついてしまった錆をマイナスドライバーでガリガリと削っていったり、新聞紙を使って鏡や窓ガラスをきれいにしたり、タワシの毛が潰れないように適度な力で使うとか…これからは道具のことを考えて使うようにします。

二つ目は自然と「無言清掃」になっていることです。無言清掃はことばを発せずに掃除をするということで、ただ静かに掃除を行うのだと思っていました。でも参加して、本当の無言清掃の意味がわかったような気がしました。本当は、ただ話をしないで掃除をするんじゃなくて、集中するから無言清掃ができ、おまけにきれいになるということがわかりました。

私は掃除をすることが好きです。それが便教会に参加する理由の一番です。汚れていたところを自分で掃除して、きれいにすることが好きなんだと思います。気持ちが清々しい、いい気持ちになると「また掃除したいなぁ」とか「なるべく汚さないように使おう」とか前向きな気持ちになれると思います。これが掃除の凄いところで、私が掃除が好きな理由です。やっぱり何をするにも楽しむことが大切なんだなと思いました。

便教会で教わった掃除方法は日常生活でも役立っていて、水道の蛇口部分の汚れ(水垢)はナイロンタオルできれいになるし、お風呂場のお掃除にも活用しています。また、新聞紙を使っての鏡、窓ガラス掃除ですが、いままでは新聞紙をクシャクシャに丸めてこすっていましたが、なるほどと納得するやり方を教わって家の中が明るくなっていくのがとても嬉しいです。また、雑巾じゃなくてタオルを使うことで床の水切りまでできてしまうことに驚いています。私は以前から掃除など黙々と作業することが好きでしたが、便教会に

参加して掃除がもっと好きになりました。トイレ掃除をした後、自分の心も洗ったみたいで気持ちよくなります。次回も参加したいです。

『掃除は無限大』

（愛知県）扶桑町立扶桑北中学校
三年　壁谷　圭亮

僕は「便教会」に二回参加し、さまざまなことを学びました。今まで真剣に捉えたり、考えたりすることのなかった「清掃」することの素晴らしさを知り、感動しました。一言で「清掃」といっても、それが意味することは無限大です。便教会に参加する前の掃除に対する意識・気持ちはとても甘く、「こんなもんでいいか…」とまじめに取り組んでおらず、時には「どうでもいいや…」と思ったりしました。そんなとき、便教会に参加する機会をいただき、自分の掃除のイメージを良くしたい、取り組む姿勢を前向きにしたいと願って参加申し込みをしましたが、当日の朝まで行く気にはなれませんでした。サボるわけにはいかないと思い参加しましたが、やり始めると緊張や不安ばかりでした。教えられたとおりにやってみると、驚くほど「きれい」になり、清々しい気持ちになりました。そのときの爽快感は他の何ものにも代えがたい良いものでした。だんだんと調子に乗ってきて、大きな所(汚れ)から裏の裏まで細かいところも徹底的に行いました。もの凄く落ちにくそうな汚れもさまざまな工夫をして、最後まで「絶対にこの汚れを落としてやる」の想いで真剣に取り組みました。掃除後は達成感、掃除って素晴らしいと感動でいっぱいになりました。この初めての便教会で気づいたことは「掃除は無限大」、つまり掃除を通して学び、気づくことは無限大であると学びました。掃除を行うことで学び、気づくことは、学校生活だけでなく、日常生活にも活用していけるということです。僕は掃除をすることで、いつも足りていない何かを得ることができますが、それは自分にもよくわかっていません。達成感でもなく、爽快感でもありません。おそらく皆さんも一度はあるのではないでしょうか。僕の気持ちはこの時ばかりは高まり、なぜか嬉しくなるのです。終わってみると「どうしてあのとき、あんなに気分が高まっていたんだろう」と不思議に思います。掃除をしてきれいになること、気持ちも晴々することは、そしてなぜか気持ちが高まることすべてを引っくるめると「無限大」ということばになります。自分の心の中にあるものが「無限大」に大きくなる、あるいは膨らんでいくということではないでしょうか？気持ちの話に答えや終わりなんてありません。考えれば考えるほど深くなり、また考えてしまう。まるで「底なし沼」のような暗い世界をイメージしがちですが、「外へ、大きく、広く、広く、もっと広く…」の「無限大」をより身近に感じられるようだなと僕は思います。外へ向かう「無限大」ともう一つの「無限大」、内に向く力、忍耐力、集中力、細かいところまで観察していく力等が養われていくと思います。一回、二回ではあまり成果、成長は感じられなくても、回数と共に増してくると思います。私たち人間は本来はきれい好きですが、とくに日本人はずーっと昔から「掃除」を大切にしてきて、「掃除」は私たちの生活に必要不可欠であります。これから僕は掃除でとくに「集中力」を養っていきたいです。自分の趣味、やりたいこと、またやらなければならないことを行い続けていくことでいろいろなことに気づき、心を無限大に広くしていきたいです。

『三年間の継続』

愛知県立鶴城丘高等学校
三年　染次　一真

鶴城丘高校に入学して三年が経ち、いよいよ卒業となりました。最初は抵抗のあったトイレ掃除にも慣れ、どんどんピカピカにできるようになりました。

入学して間もないころ、友人二人とともに高野先生から学校のトイレ掃除をしないかと誘われ、掃除が嫌いではなかったので、参加することにしました。初めてみる道具がたくさんあり、今まで使ったりしていた道具なども使い方が少し違っていました。便器の前に立つと、きれいだと思っていたものでもよく見るとあちこちに汚れがついていました。汚いものと思うと結構抵抗感がありましたがやるしかないと思い、手をつけました。ゴシゴシ続けていると、繰り返し磨いたところの汚れが剥がれ、本来の便器の輝きを取り戻してきました。おおっと思いながら続けると、その周辺も徐々にきれいになり、気づくとたくさんあった汚れがほんのちょっとになっていました。さっきまで汚れまみれだった便器がピカピカになるととても気持ちがよく、使うときにもなるべく汚したくないなと思いました。

そして、きれいになる喜びが感じられたので続けることにしました。二回目、三回目と回を重ねるうちに、経験から少しずつ慣れてきてテキパキ動けるようになってきました。今までできれいにできていたところに加え、違うところも綺麗にできるのではないかと思い、範囲を広げてみました。周辺もきれいになることで古いながらももっともっと輝きを取り戻してきている感じがしました。また、下校時刻の関係で満足いくまでピカピカになる前に時間切れになってしまうこともあり、次またきれいにすればいいのですが、悔しいと感じました。適当にやっていたらこんなことは感じなかったのだろうなと思い、真剣に取り組むことの大切さが分かった気がしました。

一年生の六月から最寄り駅、西尾駅トイレを始めました。駅となると不特定多数が使うため、もっと汚れているのだろうなと不安な気持ちになりましたが、当日、駅へ行くと僕達高校生の他に、大人の人達も集まっていました。中に入ってみると学校とは比べられないほど汚れが層になって固まっていました。僕達も驚いたし、周りの人たちもだいぶ溜まってるねと言っていました。通りかかった掃除のおばさんもそんなに汚れていたんだと言っていました。そして、作業が始まるとゴシゴシゴシと全員が目の前の汚れを取ろうと頑張りました。しつこい汚れが広範囲にあり、見た目よりもっと取るのは大変でした。学校のトイレも西尾駅トイレもある程度汚れがたまるものの、美化活動を続けていると、手を動かすと初回よりも取れやすくなってきていることがわかるようになってきました。さらに、心なしか使われ方も多少なりとも良くなってきている気がしました。継続は力なりという言葉がありますが、ほんとにそうなんだと実感しました。

二年生になってからは換気扇などや窓の掃除など便器周り以外にも力を入れていきました。西尾駅では大人の人達とも打ち解け、取れない汚れのとり方を相談して一緒に取ってみるといったようなことも増えてきました。夏は臭い、冬は水の冷たさが堪えましたがそれでも活動を続けました。

三年生では、学校のことが忙しくなり、今まで通り参加することが難しくなりつつあったものの、参加できるときは積極的に参加しました。学校はどの箇所も周期的にキレイにし、西尾駅も綺麗さが維持できてきているなと思っていた頃、新たに西尾城歴史公園のトイレの掃除も始まりました。西尾駅ほど汚くはありませんでしたが、観光客が大勢来るのでイメージアップのために細かいところまで徹底的に取り組みました。通行人、観光客の中には不思議そうに見る人もいれば、ありがとうといってくれる人もいました。ひとこと言われるだけで、やる気が起きました。

トイレ掃除を始めて三年が経ち、高校は卒業しますが、トイレ掃除を通して学んだことはやりがいや続けることの良さ、人との関わり方、苦しさ、楽しさなど色々あったと思います。生きている限り掃除を大切にし、身の回りをキレイにして性格も磨けたらいいなと思います。三年間掃除を続けたことは僕の宝です。4月からは就職しますが、自分の宝を磨けるものを見つけて成長していきたいです。

『私の人生　その四』

日本を美しくする会
相談役　鍵山秀三郎

人が増え始めた頃の教育は？

普通はことばで伝えるか、文章で伝えるか、伝達方法はいろいろあるんですけども、私はその二つともできなかったんです。その当時は言葉を持って伝えることができなかった。もちろん文章も書けない。だとしたら自分の行いで伝えよう。日々の行動で伝えよう。そのためには職場環境をきれいにして、朝（社員を）迎える。みんなが（営業から）帰ってきたときにはきれいに、みんなの使った車をきれいに洗って、きれいな車で出かけてもらう。徹底して環境をきれいにすることを私は選びました。まず環境がきれいでないと人の心は穏やかにならないですね。ゴミだらけで汚れた環境の中にいて、「穏やかな気持ちで…」と言っても、それは通らない。きれいな環境であれば、必ず人の気持ちは落ち着いて